

合格したら!
就職したい!

「良い社労士事務所」 の探し方

社会保険労務士法人北見事務所 北見昌朗



「北見事務所に就職してください」という意味のビデオではありません！

社労士試験に合格した。

専門家になるために、社労士事務所に入りたい。

でも、どこが良いのかわからない。

「良い事務所」「良くない事務所」どうやって見分ければいい？

——という疑問にお答えします。

北見昌朗の自己紹介

1995年に社労士事務所を開業。

愛知県下最大級の事務所に発展。

職員数40人(うち社労士合格者17人)

2025年に弁護士事務所も併設して合同事務所へ。

「業界のことなら何でも知っている」と語る社労士事務所の真実。

主要内容

- ① 求人票の見方
- ② 事務所の規模の見方
- ③ 専門家が育つには土壌が要る
- ④ ホームページの見方
- ⑤ 業務内容の見方 助成金に力を入れていないか？
- ⑥ 職場見学してみよう
- ⑦ 所長に質問してみよう
- ⑧ 助言 これだけは避けたいこと

①求人票の見方

Q 初任給はいくらか？

✗「初任給20万円」 低い！

Q 固定残業代はあるか？

✗「基本給20万円＋固定残業代6万円」 ブラック！

Q 年収がおおざっぱに記載されていないか？

✗「年収500万円以上」「年収1000万円あり」 曖昧！

②事務所の規模の見方

求人票には、従業員数が記載されている。

20人以上 = 地方では大手の事務所

10人以上 = 地方では中堅の事務所

10人未満 = 零細事務所

規模でわかる事務所の将来性

20人以上 = ◎ 地方では大手の事務所

良い顧客に恵まれている。将来性大。収益力は高い。

10人以上 = ○ 地方では中堅の事務所

存続できる最低限度の規模。将来性は未知数。収益力は低い。

10人未満 = × 零細事務所

将来性は小。収益力は極めて低い。

「客層」で二層化する社労士業界

残る会社

ある程度の規模の会社



規模の大きな社労士事務所
に依頼する。
顧問料が高い。

残らない会社

小規模な会社。零細企業



零細な事務所に依頼する。
顧問料が低い。

⑦専門家が育つには土壌が要る

良い事務所 定着率が良い

新人の前には、経験豊富な上司がいて、横にもベテランの有資格者がいる。

新人はまず簡単な仕事から振られて、段階を経て難しい仕事を経験。



成長

良くない事務所 定着率が良くない

昨日今日入った職員ばかりで、しかも無資格者。

教えてもらえない、相談したくてもできない。

「これで良いのだろうか？」と不安だらけ。



また転職

③ホームページの見方

- ✕ 社労士のホームページは、どこでも同じような内容が多い。「所長」の顔写真を変えたら、気が付かないほど均一化している。
- ✕ ほったらかしのホームページ。
- ✕ 大都会のビルの写真を使い、美男美女が載っている。
- 「職員募集サイト」がある。積極的な事務所は、職員が笑顔。

④業務内容の見方 ×助成金に力を入れている

助成金の申請は、政府予算に左右されがちで事務所経営が不安定。

助成金の申請は、担当者のストレスが強い。支給されなかったらと思うと辛い。



助成金の申請ばかりでは、社労士のスキルは上がらない。

業務内容の見方 ×旧態依然とした労働保険事務組合

サイトに「労働保険事務組合」と書いてある。

昭和の時代からやっている。

職員数が多いので、一見すると「大手事務所」のように見える。

でも、実は…。



飛び込め営業ばかりやっている。コンサル能力なし！

業務内容の見方 ×賃金計算を主に行っている

「社会保険労務士といえば賃金計算をするもの」
と思っていませんか？

賃金計算は、短期間に処理する必要があるので、ストレスの強い業務です。



単純業務の繰り返し。仕事が面白くないので離職率が高い。

業務内容の見方

○コンサル力が強い

パソコンで自動的に業務がこなせる時代。



3号業務(コンサル力)が強くなければ発展できない時代に…



「○○ 社会保険労務士 講師 セミナー 地名」と検索を。

地元で著名な先生はいっぱい名前が出てくる。

⑤職場見学してみよう

- ✕ 狭いオフィス(将来を目指す所長だったら、狭い場所を選ばない)
- ✕ 情報セキュリティがないオフィス(雑居ビル内で侵入が容易。簡単に壊せそうなドア、窓ガラス)

⑥所長に質問してみよう

Q 現在の職員数は？ 正社員数、有資格者数など

Q 職員の勤務年数は？

Q 3年後の目標は？ 客数、売上高、職員数等

Q 現在の課題は？

Q 職員さんに会わせていただけませんか？

職員にお会いできたら尋ねてみよう

Q いつ入社されましたか？

Q どんなお仕事を担当されていますか？

助言 これだけは避けたいこと

地元の社労士事務所を転々とする事。

「前勤務先にはこんな問題が…」と言われても。

どうせ、またスグ辞めるのでは？